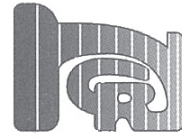


# フィリア・レター

～真の友人からの手紙～



発行：中部ろうさい病院

〒455-8530

名古屋市港区港明 1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>



## 開院60周年によせて：耳順

中部ろうさい病院 院長 加藤 文彦

さて、当院は1955年3月22日に開院いたしましたので、本年度満60周年を迎えました。人間ですと、60歳「還暦」になったこととなります。60歳といえますと、十干十二支が生年に戻ったことから「還暦」という言葉がよく使われますが、「耳順（じじゅん）」という表現もあるのですが、ご存じでしょうか？

これは「論語」の中の最も有名な文章「子曰、吾十有五而志于学、三十而立。四十而不惑、五十而知天命。六十而耳順、七十而随心所欲不踰矩。」から来ています。この文章の中では「四十にして惑わず」が最も有名で、40歳を迎えたことを「不惑の歳になった」と表現することは皆さんご存じのことだと思います。「不惑（ふわく）」とは「心に惑いがなくなった」ということです。40歳でこの境地に達する人はなかなか居ないのではないかと60歳を超えても惑っている凡人に過ぎない私は考えてしまいますが、皆さんは自身を省みていかがでしょうか？

六十にして「耳順い（みみしたがい）」とは、「何を聞いても素直に受け入れることができるようになった」、すなわち「助言にしろ諫言にしろ、相手の言葉をそのまま聞くことができるようになった」ということです。人間は他人の意見に対して、何かと自分の意見や意思をぶつけたがるものです。自分の意見を持つことはもちろん重要ですが、それは時として相手の意見を言葉のままに理解することへの障害となったり、誤解を招くものです。

これも「耳順」の境地に達するのは大変かと考えますが、「耳順」に向かって努力することはできそうな気がします。つまり、「良きにつけ悪しきにつけ、相手の言葉をそのまま聞くことができるように努める」ということです。当院も満60歳を迎えましたので、地域の皆さんや医療機関の方々との「耳順」すなわち、より良いコミュニケーションを目指して努力致しますので、皆さん方も当院との「耳順」を心掛けて戴ければ幸いです。

### 今月号のお知らせ

- ①開院60周年によせて：耳順  
……………中部ろうさい病院 院長 加藤 文彦
- ②広報委員長再任のご挨拶  
心療内科部長・勤労者メンタルヘルスセンター長  
治療就労両立支援センター両立支援部長 芦原 睦
- ③こんにちは。NST(栄養サポートチーム)です。

- ……………NST専従管理栄養士 関口 まゆみ
- ④がん化学療法看護認定看護師の仕事  
……………がん化学療法看護認定看護師 柴原 真由子
- ⑤第8回市民健康セミナーを受講して  
……………中央リハビリテーション部長 林 宏樹
- ⑥研修センター通信 ⑥院内行事のご案内
- ⑥編集後記 ⑥当院の理念・当院の基本方針



医師



## 広報委員長再任のご挨拶

心療内科部長・勤労者メンタルヘルスセンター長 芦原 睦  
治療就労両立支援センター両立支援部長

このたび、当院広報委員会委員長に再任しました心療内科の芦原です。

広報委員会は当院に通院中の患者さん方に対し、大きく三つの方法で広報活動をしています。

一つ目は、みなさんが今、手にされている一般向け広報誌「フィリアレター」です。年間3～4号の発行ですが、臨床各科はじめとして有益な情報を提供していきます。院内のいたるところに置いてありますのでご自由にお取りください。

二つ目は、年2回開催している市民健康セミナー(無料・予約制)です。今回は、7月4日(土)に名古屋国際会議場におきまして、「おしっこトラブル」(排尿障害)をテーマとして講演会を行います。特別講演として、八千代病院副院長・看護部長 永坂和子先生をお迎えし、排尿トラブルの実践的対処法についてご講演いただくとともに、当院泌尿器科の小谷部長の講演もございます。

また、11月14日(土)には「がん」をテーマにした市民健康セミナーを院内で行う予定です。現在、がん診療推進委員会が中心となり、広報委員会とともに企画を進めています。

詳しくは病院ホームページをご覧ください。

三つ目は、インターネット上の中部労災病院ホームページです。ここに6分間の病院案内の動画があります。力作ですので是非ご覧いただくと幸いです。

また、本年度からは病院公式 Facebook を開設しました。最新の情報はホームページと Facebook (投稿内容はホームページでも閲覧できるようにしております。)の両方からご覧ください。ただし、公式の Facebook ページには投稿ができませんのでよろしくお願い申し上げます。

病院の理念である「納得、安心、そして未来へ」のテーマに沿って、今後も広報委員会は活動を続けて参ります。ご理解、ご支援いただきますと幸いです。

★「フィリア・レター」は、中部ろうさい病院が、患者さんに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さんの建設的な意見を反映する広場として発行しています。

## 医療チーム

## こんにちは。NST(栄養サポートチーム)です。

NST専従管理栄養士 関口 まゆみ

私たちは、入院患者さんの栄養を支援するチームで、医師(糖尿病・内分泌内科、耳鼻咽喉科、腎臓内科、形成外科、循環器内科、外科)、摂食嚥下障害認定看護師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、管理栄養士による多職種が集まっています。

入院時に、患者さんの栄養状態を評価させていただきます。

1. 入院前に体重が減りましたか？
2. 入院前に食事量が減りましたか？
3. 入院時に、床ずれはありますか？
4. 血清アルブミン値(栄養状態を評価する値)は、どれ位ですか？
5. 入院時に、下痢、嘔吐、吐き気はありますか？
6. 自分で、動くことが可能ですか？
7. おくみがありませんか？
8. 水を飲むとおせることはありますか？

3つ以上該当する方は低栄養状態が疑われます。その中で主治医から栄養支援依頼がある患者さんに、栄養状態改善支援を行っています。

## \*低栄養状態とは

低栄養状態では、病気の回復が遅れたり、歩く力、食べる力、呼吸する力が衰えたり、傷の治りが遅くなるなど危険性が高くなります。

そこで、栄養状態を改善する『栄養の力』が必要になります。

## \*私たちは「口から食べる力」を応援します。

栄養摂取方法には、①口から食べる(経口栄養)、②チューブから栄養剤を入れる(経腸栄養)、③カテーテルから栄養輸液を入れる(静脈栄養)の3つの方法があります。

昨今、「胃ろう(お腹にチューブを通して栄養を注入する方法)」の是非について議論がありますが、患者さんにとって有益であると判断すれば胃ろう導入も提案します。

また、腸が使用できる方は、なるべく①、②をお勧めし「食べる力」が衰えないよう支援します。

## \*私たちは、栄養状態をよくすることで治療に貢献し合併症を予防します。

栄養はリハビリと併用して初めて強い骨や筋肉になります。栄養とリハビリによって、栄養状態が改善し、体力増進することで合併症を予防し治療に貢献するのが目標です。入院中の栄養摂取が満足にできていないと、治療の力になれていない可能性があります。私たちは、そのような患者さんが一日も早くお元気になって退院できるよう、『栄養の力』で支援を致します。どうぞ、お気軽に声をかけて下さい。

私たちは、口から美味しく食べて元気になっていただくための支援チームです！





## 看護師



# がん化学療法看護認定看護師の仕事

がん化学療法看護認定看護師 柴原 真由子

みなさんは、化学療法という言葉聞いて何を想像しますか？

最近では化学療法という言葉は一般的に「がん」に対する薬剤治療のことを言います。いわゆる抗がん剤治療にあたります。抗がん剤に対するイメージを聞くと、「吐いたり、髪の毛が抜ける」という意見が聞かれます。抗がん剤は、がん細胞に作用する薬剤ですが、どうしても正常な細胞にも影響を与えてしまいます。そのために、気持ち悪くなったり、髪の毛が抜ける等の副作用が起こってしまいます。抗がん剤を行っている患者さんの中には、分子標的薬というお薬を使用する患者さんもみえます。このお薬は、がん細胞めがけて作用します。副作用として皮膚が乾燥したり、ニキビみたいな湿疹がでることもあります。

しかし、副作用については、以前に比べて、予防的にお薬の調整や日常的ケアでや

わらげることができます。髪の毛が抜けることに関しては、全ての抗がん剤治療で抜けるわけではありません。帽子やかつらの使用を日常に取り入れることで、見た目のイメージの変化をカバーすることができます。

最近では抗がん剤治療も、飲み薬と点滴を組み合わせた治療や、飲み薬だけの治療もあります。また、全てではありませんが、外来通院で働きながら治療を行う方もみえます。

そんな抗がん剤治療に対するさまざまな症状、気持ちのつらさがある患者さんやご家族の方のお手伝いをさせていただくのが私の仕事です。抗がん剤治療を続けていくことの不安や困っていることなどがありましたら、いつでもご相談ください。赤いエレベーターの斜め前にある外来化学療法室に声をお掛け下さい。





## 医療職

## 第8回市民健康セミナーを受講して

中央リハビリテーション部長 林 宏樹

(平成27年4月より関西労災病院へ異動)

平成27年2月14日土曜日、当院が主催する第8回市民健康セミナー「糖尿病と共に生きる



～食事・運動・認知症との関わり～」が開催されました。市民健康セミナー、患者様や地域の皆様が関心を寄せられているテーマを取り上げ、当院職員及び外部の有識者からわかりやすく講演を行うものです。

今回のテーマは、糖尿病の方や御家族はもちろん、健康診断でメタボ予備軍と言われた方も気になる内容だと思いますので、講演の概要をお伝えします。

## 講演①「健康長寿食を楽しもう」

中部労災病院栄養管理室長

徳永佐枝子 先生

「色々なものを少量ずつ適量ゆっくり食べよう、これに尽きる」と言われました。テーマが「糖尿病食を食べよう」ではなく「健康長寿食を楽しもう」ですので、とても意味深いと感じました。食物繊維の摂取が大事というお話のなか、愛知県は野菜の生産量は上位県なのに、摂取量は最下位だそうです。愛知県人、野菜食べましょう(笑)。

## 講演②「糖尿病と認知症の危険な関係」

中部労災病院副院長 河村孝彦 先生

糖尿病の合併症には網膜症・腎症・神経障害・心臓病・脳卒中等が良く知られますが、認知症にもなりやすいそうです。「糖尿病の人はそうでない人の2～3認知症になる。認知症患者と認知症予備軍を合わせると、高齢者の4人に1人」とのことです。

また、中年期の生活習慣病(糖尿病・高血圧・脂質異常症・喫煙)は認知症の促進因子だそうです。

## 特別講演「糖尿病をやっつけよう! 運動と食事と禁煙の秘められたパワー」

新潟大学大学院医歯学総合研究科教授  
曾根博仁 先生

当院糖尿病・内分泌内科部長 中島英太郎先生のご友人という繋がりでご多



忙の中、新潟から遠路お越しいただきました。糖尿病の研究をされている先生でこの日の真打です。

「糖尿病に名医はいない、いるのは名患者」というお話からスタートしました。「お薬は医者のおさじ加減でなんとかなるが、運動、食事、禁煙は患者さんががんばる部分が多い。名医はいない、いるとすれば名患者さんだろう」とのことです。

糖尿病は生活習慣病の代表格。「戦後40倍に増えたが、理由は生活習慣の変化です。自動車が普及し歩かなくなったり、洋食が多くなり脂肪摂取量が増えた」とのこと、治療の鍵は生活習慣の改善…講演テーマの通り、運動・食事・禁煙がパワーを発揮するとのことでした。

なお、会場には糖尿病に関するパネル展示もあり、熱心な参加者が見入っていました。



最後になりましたが、寒い日にもかかわらず200名近いご参加をいただいたこと病院職員の一員として感謝申し上げます。

## >> 研修センター通信 <<

5月17日(日)、「第13回中部ろうさい病院ICLS講習会」が開催されました。「ICLS」とは「突然の心停止に対する最初の10分間のチームによる蘇生を主とした緊急時処置」です。

今年採用された1年次研修医全員に加え、看護部からの希望者が受講者となり、指導医3名のもと、2年次研修医と救急処置に精通した看護師で編成されたインストラクターによって、チーム単位での講習を進めていきます。実際の緊急時に即した状況を設定し、教育用シミュレーターを使用した実技による指導は、実に8時間に及ぶものとなりました。講習会の終わりには受講者一人一人に病院からの修了証書が手渡されました。

心停止はどの医療機関のどの部署におい

ても起こりうるもので、いざ発生してしまふと蘇生を開始するまで間髪を容れず処置が必要となります。



心停止直後の処置には、あらゆる医療スタッフがチームの一員として蘇生を行うことが求められます。この講習会では、それぞれが身につけておくべき蘇生の基本的事項を習得できるようにしてあるため、特に医療現場に立って間もない1年次研修医の受講は、まず標準や原則を身につけ、これからの研鑽意識を高めるといった意味でも、とても大切なものになると考えています。

	日時	行事名	場所	備考
院内行事のご案内	6月19日(金) 13時30分～	第2回音のきらめきコンサート 「ALTOS」アルト	1階正面入口前	
	6月23日(火) ～7月7日(火)	七夕飾りつけ期間	1階正面入口および 西側入口前	
	7月4日(土) 13時30分～15時50分	第9回市民健康セミナー 「おしっこのトラブルー近い、出にくい、間に合わないどうすれば良い?ー」	名古屋国際会議場 2号館211・212展示室	定員300名 ※事前に申込が必要
	7月7日(火) 時間未定	落語	1階正面入口前	
	8月25日(火) 時間未定	院内演奏会(琴)	1階正面入口前	

このほかにも、患者さんやご家族の方向けの講座やイベントなどを開催していきます。最新の情報は、ホームページ (<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>) をご覧ください。

### ～～ 編集後記 ～～

梅雨入り前に届く陽射しの強さに、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

今回のフィリア・レターでは「開院60周年によせて」を始め、広報委員長のご挨拶、認定看護師活動及びNSTチーム等、院内での活動をより皆さんにお届けしたく編集いたしました。また、今後開催予定の院内行事についても掲載しておりますので、ご興味をお持ちいただけましたら嬉しく思います。皆さんからのご意見・ご感想お待ちしております。(A.S)

### 当院の理念

納得、安心、そして未来へ

### 当院の基本方針

- ・ 医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・ 生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・ 人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・ 地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・ 災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供